

第九條 府縣長官警視長官其所屬判任官ヲ懲戒スルニ其罷責ヲ專行スルコトヲ得ルヲ除クハ外其罰俸免職ヲ行フハ便宜處分ヲ速ニ內務卿ニ届出ヘシ

府縣官判事ヲ兼ル者其所屬判任官ノ罰俸免職ヲ行フハ便宜處分ヲ速ニ司法卿ニ届出ヘシ

第十條 其有恣故造私罪ニ入ル者ハ職務上ノ罪ト雖モ之ヲ司法官ニ移シ本屬長官專ニ處分スルコトヲ得ス

(參考)

明治十四年四月廿七日司法省第十四號ヲ以檢事へ達

官吏懲戒例第十條ニ其有恣故造私罪ニ入ル者ハ

職務上ノ罪ト雖モ之ヲ司法官ニ移シ云々ト有之ニ付テハ以來右等ノ者ハ司法卿若クハ檢事直ニ之ヲ受ケ司法卿若クハ檢事ニ於テ有恣故造ニ非ラス又律ニ觸カルト判スルハ之ヲ本屬長官ニ還付シテ其處分ニ任スヘキ儀ト可相心得此旨相達候事

(參考)

明治九年八月十日司法省第十九號ヲ以テ大審院長各裁判所長各檢事局長へ達

今般職制律被廢官吏懲戒例被相設候ニ付テハ判任官以下職務上過失有之節ハ其事實ヲ具シ可申出此旨相達候事



明治九年五月五日內務省乙第九十

二號ヲ以東京府ヲ除ク廳府縣へ達

巡查懲罰例別紙ノ通改正候條此旨相達候事

別紙 巡查懲罰例

- 第一條 凡職務ノ規則ニ違背シ及ヒ怠慢失誤アル者ハ其情狀ヲ審按シ俸給一ヶ月百分ノ一ヨリ少カラス一ヶ月ヨリ多カラサル罰金ヲ科シ輕キ者ハ呵責ニ止ム
- 第二條 凡犯狀ノ職務ヲ耻カシムルニ係ル者ハ免職ス
- 第三條 凡罰金未タ完納セサル中免職死亡等ニ係ル者ハ追徴スルヲ免ス
- 第四條 凡罰金ハ毎月ノ俸給ヲ控除シテ完納セシム但月俸ノ三分一ヲ過シルヲ得ス

第五條 凡官物ヲ遺失及ヒ毀損スル者ハ相當ノ罰金ヲ科シ尙其代價ヲ賠償セシム

(參考) 明治九年二月廿九日內務省乙第廿一號ヲ以東京府ヲ除ク府縣へ達

昨八年當省乙第百六拾八號ヲ以テ巡查懲罰例相達候處右懲罰金ノ儀ハ各廳へ積置追テ警察費又ハ別途仕拂等ニ難相立巡查勤務上臨時給與等ノ廉へ支辨可致此旨相達候事  
但追徴金員及支出ノ廉々毎三月可届出候事



明治九年一月十二日  
天官第一號布告

改定律例第二百六十七條私娼街賣條例相廢、賣淫取締  
懲罰ノ儀ハ警視廳并ニ各地方官ニ被任候條此旨布告候  
事

(參考) 明治九年一月廿三日內務省乙第九  
號ヲ以東京府ヲ除ク廳府縣ニ達

本年第壹號ヲ以テ改定律例第二百六拾七條廢シ  
ノ儀御布告相成候ニ付テハ過料三拾圓以內懲戒  
六個月以內適宜ノ方法ヲ設ケ賣淫取締一層行届  
候様處分可致此旨相達候事

(參考) 明治九年三月九日內務省乙第二十  
五號ヲ以東京府ヲ除ク府縣ニ達

本年第壹號ヲ以テ賣淫取締懲罰ノ儀警視廳並各  
地方ニ御任ノ儀公布相成猶又右罰則ノ備當省乙  
第九號ヲ以相達候處此罰金ハ各廳ニ預リ置警察  
費又ハ懲毒検査費貧民救育費等ニ遣拂不苦尤徴  
收ノ金高及遣拂明細共每三個月分取纏メ當省ニ  
可届出此旨相達候事

(參考) 明治九年一月廿七日  
警視局第二十三號達

賣淫罰則左ノ通相定候條此旨各區ニ可相達事

賣淫罰則

第一條 凡ソ警視官ノ認訖ヲ得スルテ賣淫ヲ爲  
シ及ヒ媒合容止スル者初犯ハ十圓以內再犯以

賣淫取締罰則



上ハ二十圓以内窩主初犯ハ十五圓以内再犯以  
上ハ三十圓以内ノ罰金ヲ科ス

但シ父母等ノ指令ヲナス者ハ其罰ヲ指令者  
ニ科ス

第二條 若シ無方ニシテ罰金ヲ徴收ス可カラサ

ル賣淫者及ヒ媒合容止初犯ハ二个月半以内再

犯以上ハ五个月以内窩主初犯ハ三个月以内再

犯以上ハ六个月以内ノ苦使ニ處ス

第三條 賣淫ニ類スル猥褻ノ現跡ヲ認ムル三度

ニ至ル者此規則ニ照シ處置ス可シ

第四條 賣淫ノ罰ヲ受ケシ者貧窮ニシテ自存ス

ル能ハサルハ教育所ニ付シテ工藝ヲ授クヘシ

其工事ハ習熟シ又ハ工錢ノ貯蓄ヲ得就産ノ目

途アルカ或ハ人ニ嫁スル等ノ類ハ親戚又ハ地

主家主差配人等身元儘カナル者ノ保証ヲ以テ

之ヲ下付ス可シ

第五條 右ノ者再犯ヲナス者ハ保証人ヨリ五圓

以内ノ罰金ヲ科ス

第六條 寄留ノ者賣淫ノ罰ニ處セシキハ其親戚

又ハ雇主受入或ハ町用掛等へ責付シ本籍へ送

還セシムルコトアルヘシ

第七條 右ノ罰金ハ總テ教育所ノ費用ニ充ツ可シ

(参考) 明治九年一月廿六日  
警視局第二十六號達

賣淫取締規則



今般隱賣女罰則布達候ニ付テハ町用掛差配人共於テ精々注意シ犯則ノ者無之様可必掛旨篤ト懇達可致最モ戸長ニ於テ行狀不宜聞ヘアル婦女ハ時々教諭ヲ加ヘ若シ不相用罰則ニ觸レ候者ハ直ニ警視署ヘ届出可申此段相達候事

但賣淫ノ所業發覺セスト雖モ右疑ヒ有之婦女ハ盡ク警視署長ニテ住所姓名年齢等簿册ニ記載シ其行狀視察可致答ニ付姓名無遺漏届出可申事

(参考) 明治九年二月廿四日 警視局第四十六號達

本年一月第二十三號布達賣淫罰則第四條第五條

第七條詮議ノ筋有之取消候條此旨各區へ可相達事



明治九年二月廿四日  
警視局第四十七號達

貸座敷並娼妓規則左ノ通改定候條右業體ノ者共ニ無渡  
可相達候也

但黴毒検査等入費ノ儀ハ該區扱所於テ取集メ毎月五  
日限リ當廳ニ可相納事

貸座敷規則

第一條 貸座敷營業ハ免許地ニ限ルヘシ他所ニ於テハ  
決シテ不相成候事

第二條 貸座敷ヲサント欲スル者戶長與印ヲ以テ警  
視廳ニ願出ヘシ詮議ノ上免許鑑札可下渡事

第三條 黴毒検査并病院入費トシテ月々商高ノ一割納

金可致事

但客帳毎朝元締又ハ副元締ノ検査ヲ受クヘキ事

第四條 明治五年十月被仰出候年季解放ノ御趣意彌堅  
ク可相守事

第五條 各地同渡世中元締并副元締ヲ設ケ總テ警視官  
ノ命令ヲ奉承シ業體諸取締向及ヒ黴毒検査等費金上

納方可取扱事

第六條 娼妓ノ價直豫メ警視官ニ可届出事

第七條 娼妓ノ寫眞并其價付ヲ店頭ニ可掲出事

第八條 娼妓ニ見世ヲ張ラセ又ハ通行人ニ遊興ヲ勸メ  
候儀一切不相成事

第九條 娼妓ト契約ノ條件ハ必ス其條約調印ノ前警視



官吏ノ檢閲ヲ受クヘシ而シテ其契約書ニハ元締又ハ副元締ニテ與印可致事

但本文ノ手續ヲナシ、ル契約ハ他日爭論ヲ生シ訴出候トモ取上ケ間敷事

第十四條 貸坐敷娼妓ノ規則ニ各娼妓ニ渡置キ違背不致  
機厚ク可注意事

但娼妓ノ規則ヲ了解不致者ニハ篤ト指示可致事  
第十一條 娼妓ノ契約ニ背キ或ハ命令ニ従ハサル等ノ事  
事アルハハ警視官吏ニ訴出其處分ヲ受クヘシ自儘ニ  
苛刻ノ取計致間敷事

第十二條 娼妓他ノ貸坐敷ニ轉移シ或ハ廢業セシムル  
包シキハ其旨警視官ニ届出ヘシ無故自由ヲ妨ケ申間

敷事

第十三條 鑑札ヲ持タル婦女ニ坐敷ヲ貸シ娼妓ニ紛ハシキ所業決シテ爲致間敷事

第十四條 娼妓ノ健康清潔ニ注意シ黴毒ノ検査ヲ受クヘシ趣意篤ト告諭可致事

第十五條 娼妓疾病アラハ何症ニ拘ハラズ速ニ警視官吏ニ届出醫員ノ診察ヲ受クヘシ黴毒其他傳染病ト認

知ルトキハ別シテ注意ス可キ事  
第十六條 娼妓ハ猥リニ區域外ニ出スヘカラス若シ已

ル事得サル事故アルハ必ズ借カナル者ニ附添可申  
第十七條 娼妓ヨリ正業ニ轉就セント欲スルトキハ決

貸坐敷娼妓規則



故障致間敷事

第十八條 娼妓ヲシテ早ク正業ニ轉就セシムルニ注意  
シテ從前物日等ノ弊習ヲ製ヒ無益ノ出費ヲ促シ候儀堅  
ク禁止可致事

第十九條 罪犯人相書ヲ以テ布達ノ者ハ勿論其他不  
良

ノ徒潛伏致候歟又ハ金錢遣方等不審ノ者有之節ハ不  
取逃樣注意致置速ニ其區警視署又ハ巡行ノ巡查ニ密

告可致事

第二十條 此規則ニ違背致候者ハ貸坐敷免許鑑札取上又

ハ取上ケス罰金三十圓以内若使六個月以内ノ處分可

申付事

娼妓規則

第一條 娼妓トナラント欲スル者ハ現住籍ノ戶長與印

ヲ以テ警視廳ニ願出ヘシ詮議ノ上免許鑑札可下渡事

但十五才未滿ノ者ハ免許不相成事

第二條 娼妓ヲ止メント欲スル者ハ第一條ノ手續ニ從

テ警視廳ニ届出鑑札返納可致事

第三條 自宅ヨリ出稼シ又ハ貸坐敷ニ同居スルモ勝手

タル可シト雖モ遊所區域外ノ地ニ住居致間敷尤モ猥

ニ區域外ニ徘徊致候儀不相成候事

但不得止外出致候節ハ附添人同道可致事

第四條 自宅ニ客ヲ誘ヒ又ハ客ノ誘引ヲリトモ貸坐敷

外ニ宿泊致候儀一切不相成候事

但旅行等ノ儀ハ此限ニ非ス

貸坐敷娼妓規則



第五條 微毒検査並病院費用トシテ月々稼高百分七納金可致事

第六條 貸坐敷娼妓ノ規則堅ク相守其了解難致條件ハ坐敷主ヘ篤ト可問合事

第七條 七日毎ニ一回ツ、必ス微毒ノ検査ヲ受ク可シ若シ余病等ニテ出場難相成節ハ醫員其寢所ニ到リ検査可致事

第八條 何ノ症ニ拘ハラズ病ヲ發シタルキハ坐敷主ヘ申出警視醫員ノ診察ヲ受ク可シ尤モ微毒疥癬等ノ諸症ハ微毒病院ニ於テ療養ヲ加フ可シ其他ノ病症ハ他醫ノ治療ヲ受クル隨意ナルヘキ事

第九條 自他ノ健康ヲ保ツカクメ身體及器具ハ最モ淨

潔ヲ要ス可シ微毒等ヲ發スルヲ秘隱シ客ニ交接致間敷事

第十條 後日正業ニ轉スルノ妨ケトナル可キ大金ノ負債ヲナサ、ル様厚ク心掛著修ノ所爲有之間敷事

第十一條 仲間交際又ハ物日等ノヲメ無益ノ散財決シテ致間敷若シ強テ出費ヲ促ス者アラハ警視官吏ヘ訴出處分ヲ可受事

第十二條 正業ニ遷ラント欲スルヲ坐敷主等故障スル件ハ警視官吏ニ訴出其處分ヲ可受事

第十三條 現在ノ貸坐敷ヲ去リ他ノ貸坐敷ニ移ラントスルキハ相對示談ノ上タル可シト雖モ其主故ナシ之ヲ拒ミ或ハ苛刻ノ取扱ヲナスニ於テハ警視官吏ニ訴



出其處分ヲ可受事  
第十四條 何事ニヨラズ客ノ所業不審ナルヲ見聞候ハ  
速ニ坐敷主ヘ密告可致事  
第十五條 此規則ニ違背致候者ハ罰金二十圓以內苦使  
五个月以內ノ處分可申付事

(追加) 明治九年九月七日警  
視局乙第十四號達

本年二月第四十七號達娼妓規則中左ノ通追加候條此旨  
正副元締並渡世筋ノ者ヘ可相達事  
娼妓規則  
第十六條 鑑札ヲ他人ヘ貸シアタヘ或ハ借受ケ渡世致  
候儀決シテ不相成候事

(改正) 明治十年八月二十七日  
警視局乙第二十三號達

明治九年二月中第四十七號ヲ以相達候貸坐敷並娼妓規  
則警視廳ヲ警視本署ト改メ娼妓規則第二條左ノ通更正  
候條此旨右業體ノ者ヘ可相達事  
娼妓規則第二條改正  
娼妓ヲ止メントスルルハ第一條ノ手續ヲ以テ出稼地所  
轄ノ警視分署ヘ届出鑑札返納可致事

(參考) 明治十年十二月十一  
日警視局第八號達

貸坐敷屋ニ於テ通行人ニ對シ強ク遊興ヲ勸ムヘ  
カラサル旨貸坐敷規則第八條ニ掲載有之候處自  
今犯則ノモハ雇人等ノ所爲ト雖モ總テ其雇注



處分可申付候條此旨貸坐敷渡世ノ者ハ可相  
違事

(參考) 明治九年二月二十四日警  
視局二ノ第百二十七號達

貸坐敷並娼妓免許願ノ儀ハ第一大區十五小區坂  
本町二十八番地當廳第二局出張所ニ差出可申此  
旨相違候事

(參考) 明治九年二月廿四日警  
視局二ノ第百廿五號達

貸坐敷並娼妓引手茶屋三渡世取締會所ノ儀ハ自  
今相廢候事  
但會所ニ於テ取扱候事務ハ戶長並正副元締ニ

引渡可申事

右之通渡世筋並正副頭取ノ者共ニ可相違此旨相  
違候事

(參考) 明治九年十月二十日  
警視局乙第十八號達

貸坐敷引手茶屋渡世並娼妓稼取締筋ニ付當廳布  
達ノ旨ニ違背候者ハ總テ貸坐敷規則第二十條娼  
妓規則第十五條ニ照シ處分申付候條此旨元締並  
渡世筋ノ者ニ可相違事

(參考) 明治九年二月廿四日警  
視局二ノ第百廿六號達

今般三渡世取締會所相廢候ニ付同所ニ於テ取扱



ノ事務局長並正副元締ニテ受取可申尤是迄取集  
候步金錢高並鑑札渡帖免許願書綴簿冊ハ來ル廿  
八日迄ニ當廳第二局ニ可相納此旨相達候事

(參考) 明治九年二月廿七日警  
視局二ノ第百三十號達

- 一 引手茶屋ニテ遊客ヲ止宿爲致候儀ハ決テ不相  
成候事
- 一 犯罪人左相書ヲ以取調方正副元締ヨリ通知候  
節ハ精々注意致シ心當ノ者有之候ハ、速ニ警  
視署ニ可訴出事
- 一 不良ノ徒潛伏候カ又ハ金錢遣方等不審ノ者有  
之節ハ右同斷ノ事

一 黴毒検査並ニ病院入費トシテ毎月月々二圓宛  
可納金事

但正副元締ニテ取纏メ翌月二日限リ扱所ニ  
可相納事

右之通引手茶屋渡世ノ者ニ無親可相達事  
但本文ノ趣ハ各地正副元締ニモ可相達事

(參考) 明治九年三月十五日警視  
局二ノ第百八十三號達

貸座敷元締以下給料左ノ通治定候條毎月取纏メ  
候歩金ノ内ヨリ夫々支給致シ精算帳相添歩金上  
納ノ節届出可申此段相達候事

新吉原



元締	一人	二十圓
副元締	二人	一付八十五圓
書役	二人	同十五圓
同助勤	二人	同八圓
小使	二人	同五圓
品川		
元締	一人	十五圓
副元締	一人	十圓
書役	一人	八圓
小使	一人	五圓
薪宿		
元締	一人	十三圓

貸座敷娼妓規則

副元締	一人	九圓
書役	一人	七圓
小使	一人	五圓
板橋		
元締	一人	八圓
副元締	一人	七圓
書役	一人	五圓五十錢
小使	一人	四圓
千住		
元締	一人	九圓
副元締	一人	七圓
書役	一人	六圓
二付人		



小使	二人	四圓
根津	一人	十圓
元締	一人	七圓五十錢
副元締	一人	六圓五十錢
書役	一人	四圓
小使	一人	

(參考) 明治九年四月十七日警視  
局第二百五十八號達

貸坐敷店頭へ差出候娼妓寫眞ノ中其家寄留ノ者  
ト相違ナルヲ掲シ置候向モ間々有之趣甚不都合  
ノ事ニ候自今右様心得違ノ儀無之様各所元締へ  
可相達此旨相達候事

(參考) 明治九年四月廿一日警視  
局第二百八十三號達

娼妓區域違ノ貸坐敷地へ轉シ候節取扱方心得左  
ノ通相定候條正副元締ニ此旨可相達事  
一 取扱方心得  
一 娼妓甲ノ地ヨリ乙ノ地へ轉シ營業致度段申出  
候ハ、甲地ノ元締ヨリ乙地ノ元締へノ添書ヲ  
本人ニ付與ス可シ乙ノ元締ニテハ甲ノ元締ニ  
添書ヲ本人所持ノ鑑札ト相副へ第二局  
出張所へ鑑札引換方申出テ受取リ本人へ相渡  
スルキ事  
一 前條ノ如ク娼妓地ヲ轉シ候節ハ其旨該署並區  
務所へ元締ヨリ届出ツルキ事

貸坐敷娼妓規則



一 區域内甲ノ貸坐敷ヨリ乙ノ貸坐敷ヘ轉移スル者ハ右ノ手續ヲ爲スニ及ハス其旨元締ヨリ第  
三届出張所及ヒ該署ヘ可届出事

(参考) 明治九年四月廿七日警視局七ノ第七十一號達

病院入娼妓金錢所持候儀堅ク禁止候條此旨正副元締並右渡世筋ノ者ヘ無洩可相達事

(参考) 明治九年四月二十七日警視局二ノ第二百八十一號達

貸坐敷並引手茶屋等從來ノ弊習ハ泥ク仲間組合ヲ立私ニ規定等取設ク候條不相成候條是迄取設ケ有之分ハ總テ可相廢依テ心得方左ノ通り相定

候條各所元締並渡世筋ノ者共ヘ無洩可相達事

一 貸坐敷並引手茶屋心得

一 貸坐敷并引手茶屋等區域内同渡世中組合ヲ立

テ私ニ規定取設ケ互ニ渡世上ノ便利ヲ妨ク候

機ノ儀決シテ不相成候事

一 區域内同渡世中取締ノ爲メ不得已仲間規定取

設クヘキ事項ハ必正副元締ヲ經由シ指圖ヲ受

クヘキ事

但渡世違ヒノ者ニ相係リ候約定取結ノ儀モ

本文ノ通りタル可シ

一 娼妓ヨリ引手茶屋等ヘ衣服或ハ金錢等多分ノ

配リ物ヲナシ又ハ飾リ夜具等致シ候儀ハ一切

貸坐敷娼妓規則



不相成候條貸坐敷主ニテ急度取締可致事  
一遊客ノ求メサル酒肴並遊妓等差出シ金銀食リ  
取リ候儀決シテ不相成候事  
右之條々確守可致若シ違犯ノ者有之ニ於テハ貸  
坐敷規則第二十條ニ照シ處分致ヘシ候事

(參考) 明治九年五月十三日警視  
局二ノ第三百三十一號達

引手茶屋渡世ノ者共本年二月二ノ第百三十號達  
ニ違背致シ候時ハ營業差止又ハ不差止十圓以內  
ノ罰金可申付候條此旨正副元締並右渡世筋ノ者  
ニ可相達事

(參考) 明治九年五月廿六日警視  
局二ノ第三百四十九號達

本年四月廿一日二ノ第百八十三號ヲ以テ娼妓  
區域達ノ貸坐敷地ニ轉シ候節取扱心得相達候處  
自今右届書ヘハ親戚及ヒ身元引受人連印致候儀  
ト可相心得此旨正副元締並右渡世筋ノ者ニ無洩  
可相達事

但當地ニ親戚無之者ニ限リ身元引受人ノニ連  
印ニテ不苦候事

(參考) 明治九年七月二十六日警視局乙第六號達

娼妓ト貸坐敷主トノ結約書ハ娼妓廢業或ハ稼替  
等ノ節必舊結約書取消ノ儀所轄ノ警視署ニ可届

貸坐敷續規則



出此旨元締並渡世筋ノ者へ可相達事

(参考) 明治九年八月十四日 警視局乙第十一號達

本年七月乙第六號ヲ以テ相達候娼妓ト貸坐敷主  
トノ結約書取消届ノ儀ハ消印セシ結約書相添双  
方ヨリ届出候儀ト可相心得此旨正副元締並渡世  
筋ノ者へ可相達事

(参考) 明治九年七月二十八日 警視局乙第七號達

近來貸坐敷ニ於テ酒肴ノ代料トシテ遊客若用ノ  
衣類ヲ強テ取押候者有之趣不都合ニ付以來決テ  
不相成候條此旨正副元締並渡世筋ノ者へ可相達

事

但遊客ヨリ本文代料トシテ衣類物品等差置候  
者有之候ハ、其品持參警視署へ可訴出事

(参考) 明治九年八月三十一日 警視局乙第四百四十八號達

貸座敷並娼妓引手茶屋共歩金仕拂帳書式區々ニ  
テ不都合ニ付自今別紙書式ニ準テ記載可致此旨  
元締へ無洩可相達事

別紙

書式

何何大區何小區

何 宿



一何月分、

貸座敷商高  
金何千何百何圓  
一割高

一金、

娼妓稼高  
金何々々  
此七步

一金、

引手茶屋何百何十何軒  
費金高

合計金

内

金

元締何人給料

金

副元締何人給料

金

書記同斷

金

小使同斷

金

何々宿料

金

何月何日伺濟

金

何々新規仕拂ノ分ハ一々伺  
濟ノ月日記載スヘシ

小以

差引

金、

納高

右者何月分納金ノ内給料諸費仕拂計算書面ノ通  
上納仕候也

右何宿

元締

貸座敷敷規則



何之誰

明治九年何月幾日  
前書之通相違無御座候也

戶長

印

(參考) 明治九年八月八日  
警視局乙第八號達

引手茶屋ノ儀ハ新規開業不聞届候條爲忒得此旨  
正副元締へ可相違事

(參考) 明治九年八月廿六日警  
視局乙第十三號達

本年八月乙第八號ヲ以テ引手茶屋竊規開業不聞  
届旨相違置候處渡世讓渡ノ儀ハ不替候條此旨元

締並渡世筋ノ者へ可相違事

(參考) 明治九年八月十日  
警視局乙第九號達

婿妓ト貸座敷トノ契約書調印ノ儀父母兄弟或ハ  
親戚ニ限リ可申ノ處近來縁故無之者身元引受ニ  
相立調印候者モ有之趣甚不都合ニ付自今他人引  
受相立候儀決シテ不相成候若シ親戚等無之不得  
已他人引受相立候節ハ其緣由詳細可届出此旨正  
副元締並渡世筋ノ者へ可相違事  
但契約書檢閱ノ節ハ其調印者出頭可致代人差  
出候儀ハ決シテ不相成候事



(參考) 警視局乙第八月十日

娼妓契約書檢閱願出候節ハ自今寫一通爲差出可  
申此旨相達候事

(參考) 警視局外十一月廿五日

深川出店貸坐敷引手茶屋渡世共ノ内元地ニ在來  
ノ家屋ヲ所持シ又ハ並家屋ヲ新築致候者ハ先般  
東京府へ假宅延期願出候趣意ニ基キ改造可致若  
シ改造難致者來ル十二月十日限リ歸住可致且煉  
化塗屋等建設見込ノ者期限ニ至リ築造不致節ハ  
鑑札取揚營業差止候條心得違無之様可致此旨元  
締並渡世筋ノ者へ可相達事

(參考) 警視局甲十一月廿六日

貸坐敷並娼妓引手茶屋免許願ノ儀自今本廳第二  
局へ可差出此旨布達候事

但娼妓免許願差出候日割ノ儀ハ従前ノ通可相  
心得事

(參考) 警視局甲第二號布達日

娼妓トナラントスル者ハ自今土曜日ヲ以テ各貸  
坐敷地ノ黴毒検査所ニ到リ身體検査ヲ受ケ其証  
書相添三日内ニ従前ノ手續ヲ以テ警視局へ出願  
可致此旨布達候事

但願書へ連印ノ親戚ハ本人ノ縁由父母兄弟叔  
伯父母從兄

貸座敷娼妓規則



弟等ノ肩書ニ記載スヘシ

(參考) 明治十年乙二月廿三日

娼妓認許願ノ儀ハ親戚ニ限リ連印可致答ニ付自  
今右連印者緣由篤ト取調可申若シ親戚無之他人  
ニテ保証連印スル者ハ其事由書相添可申出此旨  
相達候事

(參考) 明治十年三月二日

娼妓區域外ニ出ル節ハ其事由元締詰所へ届出手  
形可申受尤立戻候ハ、速ニ返付可致此旨元締並  
渡世筋ノ者へ可相達事

但元締ニ於テハ出入調査ノ爲メ手形付與可致  
事

(參考) 明治十年六月十四日

娼妓入院中其父母疾病ニ罹リ看護又ハ一時面會  
ノ爲メ出院ヲ請フモノハ親戚ヨリ事由ヲ詳記シ  
出稼ノ貸座敷主並元締ノ加印アル書面及ヒ治療  
ヲ受ケル醫師ノ診斷書ヲ添直ニ該病院へ申立候  
儀ト可相心得此旨豫テ其筋ノ者へ可相達事

(參考) 明治十年六月廿九日

娼妓入院中其父母疾病ニヨリ廢業ノ義ハ本人並

貸座敷娼妓規則



親戚貸座敷主元緒等連印ノ書面ニ現在ノ區ノ戶  
長ノ與印ヲ受ケ出願爲致候儀ト可心得此旨豫テ  
其筋ノ者へ可相達事

明治八年六月廿八日  
太政官布告

議謗律別冊之通被定候條此旨布告候事

議謗律

第一條

凡ソ事實ノ有無ヲ論セス人ノ榮譽ヲ害スヘキノ行事ヲ  
摘發公布スル者之ヲ譏毀トス人ノ行事ヲ舉ルニ非スソ  
惡名ヲ以テ人ニ加ヘ公布スル者之ヲ誹謗トス著作文書  
若クハ畫圖肖像ヲ用ヒ展觀シ若クハ發賣シ若クハ貼示  
シ人ヲ譏毀シ若クハ誹謗スル者ハ下ノ條例ニ從テ罪ヲ  
科ス

第二條

第一條ノ所爲ヲ以テ乘輿ヲ犯スニ涉ル者禁獄三月以上



三年以下罰金五十圓以上千圓以下  
二罰并科  
一罰ヲ科ス以下  
之

第三條

皇族ヲ犯スハ懲ル者ハ禁獄十五日以上二年半以下罰金十五圓以上七百圓以下

第四條

官吏ノ職務ニ關シ譏毀スル者ハ禁獄十日以上二年以下罰金十圓以上五百圓以下誹謗スル者ハ禁獄五日以上一年以下罰金五圓以上三百圓以下

第五條

華士族平民ニ對スルヲ論セテ譏毀スル者ハ禁獄七日以上一年半以下罰金五圓以上三百圓以下誹謗スル者ハ罰

金三圓以上百圓以下

第六條

法ニ依リ檢官若クハ法官ニ向テ罪犯ヲ告發シ若クハ証スル者ハ第一條ノ例ニアラス其ノ故意誣告シタル者ハ誣告律ニ依ル

第七條

若シ譏毀ヲ受ルノ事刑法ニ觸ル、者檢官ヨリ其事ヲ糾治スルカ若クハ譏毀スル者ヨリ檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ譏毀ノ罪ヲ治ムルヲ中止シ以テ事案ノ決ヲ俟テ其ノ被告人罪ニ坐スル時ハ譏毀ノ罪ヲ論セズ若シ事刑法ニ觸ラズ單ニ人ノ榮譽ヲ害スル者ハ譏毀スルノ後官ニ告發スト雖モ仍ホ譏毀ノ罪ヲ治ム

誣謗律



第八條  
凡ノ讒毀誹謗ノ第四條第五條ニ係ル者ハ被害ノ官民自  
ラ告ルヲ待テ乃チ論ス

正誤

- 一二丁 末行 (管内ノ)ハ (チ)ノ誤
- 六八丁 七行 (附屬ニ)ハ (ウ)ノ誤
- 八二丁 十行 (送)ハ (達)ノ誤
- 一〇三丁 末行 (東京)ノ下 (府)チ脱ス
- 一三四丁 九行 (該廳)ノ下 (ニ)チ脱ス
- 一五二丁 十一行 (軍艦)ハ (艦)ノ誤
- 二二六丁 十行 (海軍)ハ (陸)ノ誤
- 二五〇丁 八行 (士族)ノ下 (平)チ脱ス
- 二五三丁 末行 (神祇宮)ハ (官)ノ誤
- 二六六丁 六行 (警備)ノ下 (祭)ヲ脱ス
- 二七七丁 五行 (幣害)ハ (弊)ノ誤
- 二八二丁 七行 (官幣國社)ハ (官國幣社)ノ倒置
- 三二六丁 九行 (共立)ノ下 (合)チ脱ス



三四九丁	離形欄内(三月)个ハ	(三)个月ノ倒置
四三四丁	九行 (追)ハ	(テ)ノ誤
四七二丁	十行 (辰朱金)ハ	(米)ノ誤
四七九丁	初行 (ル)ハ	衍字
五〇七丁	五行 (使利)ハ	(便)ノ誤
五四一丁	三行 (第廿二條)ノ下	(ハ)ヲ脱ス
五四四丁	二行 (宿泊)ハ	(泊)ノ誤
五四九丁	初行 (警視廳)ハ	(局)ノ誤
五九九丁	初行 (候ハ)巡查ハ	(候ハ)巡查ノ倒置
同丁	四行 (處分)ノ節ハ	(儀)ノ誤
六三九丁	三行 (入馬)ハ	(入馬)ノ誤
六六三丁	末行 (請合)ハ	(リ)ノ誤

明治十年九月十九日版權免許

編輯人

高知縣士族

田中 信顯

第一大區十三小區  
濱町一丁目一番地

出版人

和歌山縣平民

北畠 茂兵衛

同大區六小區通  
壹町目十五番地

發兌人

東京府平民

須原 鐵二

同大區同小區西  
河岸町十二番地

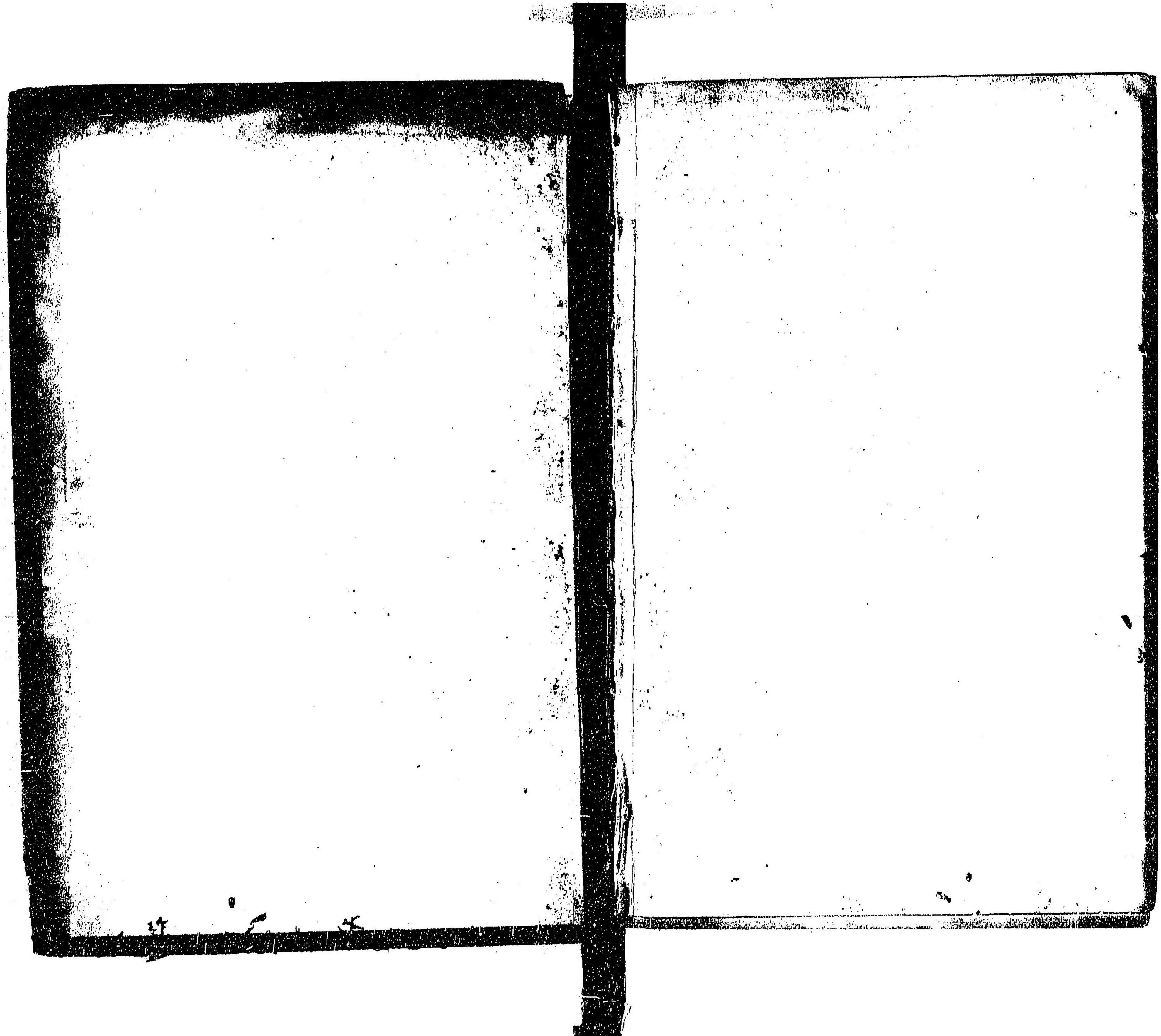




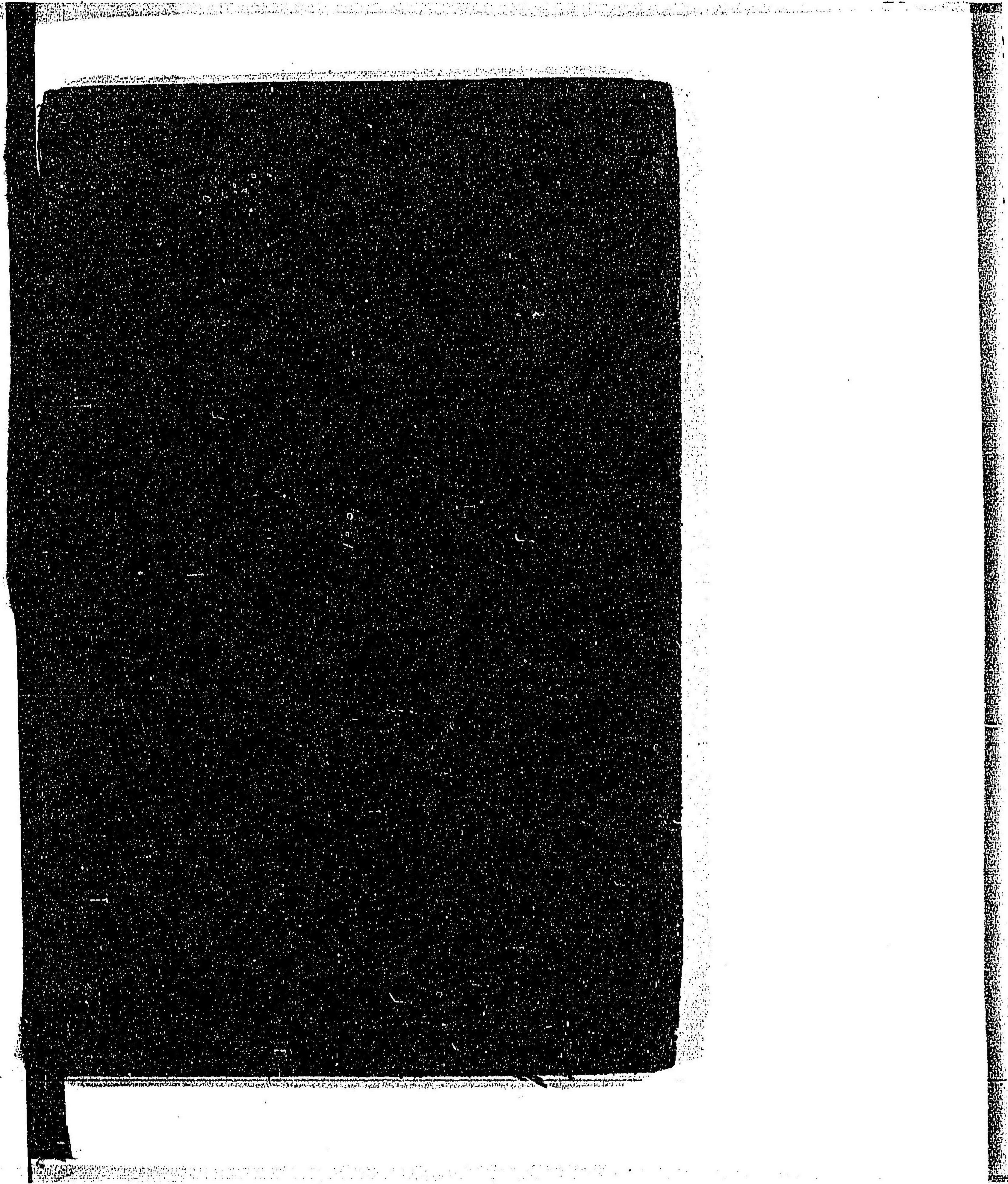














東 京 國 立 大 學				
一 三 冊	五 號	三 架	二 二 層	類

禁電子式複写

031133-008-8

CZ-3-02

本朝民鑑 第2版

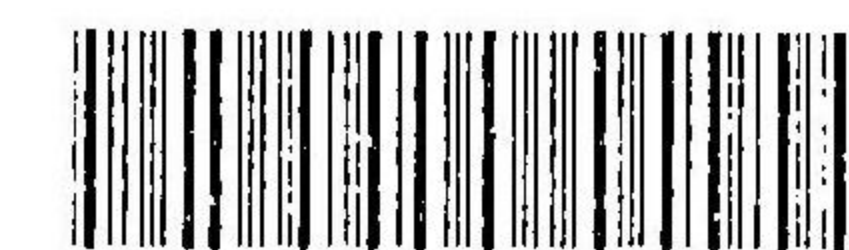
第1-7篇 附録 第3-8篇

田中 信顯

福鎌 芳隆 編

M11-13

BBC-1109







東京府立図書館

	門
	部
	類
	函
	棚
	号

TOKYO FU LIBRARY